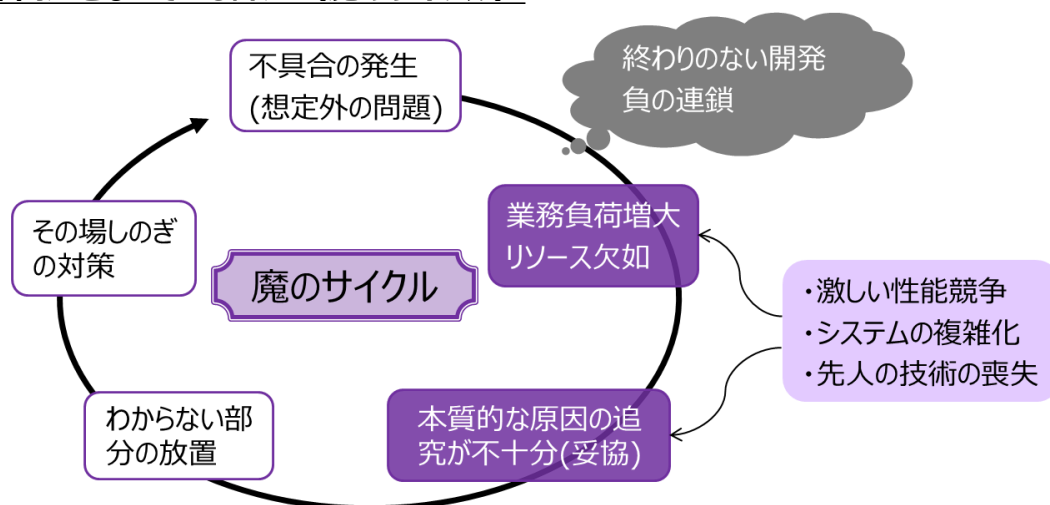


# メカニズム解明支援

## ■ 長年問題となっている課題を解決に導く為のサービス

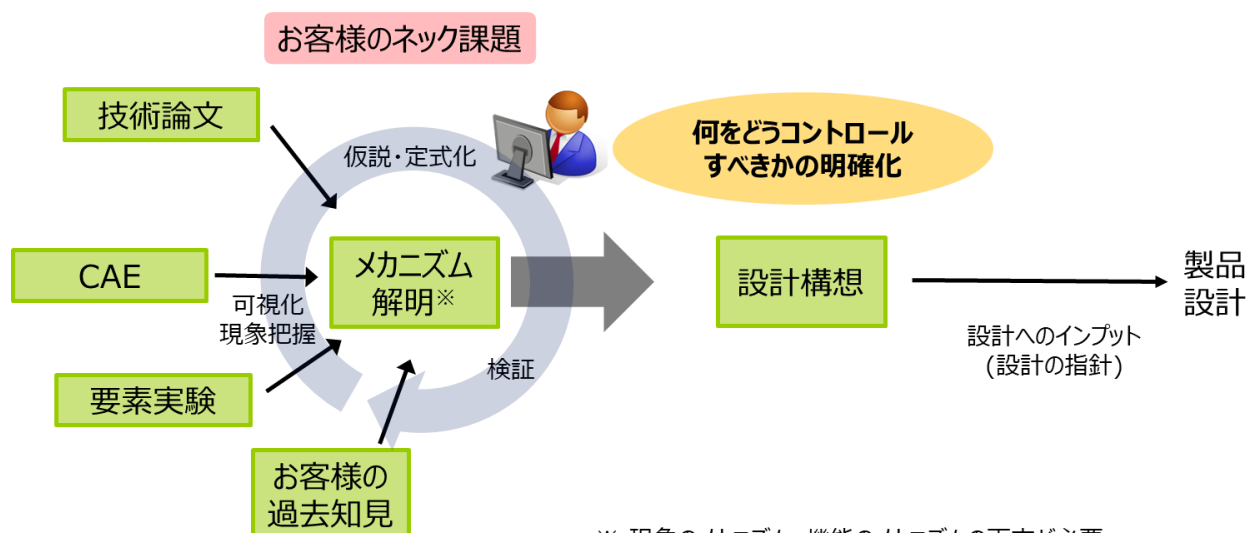
- 長年問題となっている課題の本質的な原因を追究し、根拠ある設計構想を策定することで課題を解決します。
- 問題発生メカニズムを解く為の考え方と設計根拠を残します。

### 長年問題となっている課題（魔のサイクル）



## ■ 魔のサイクルを解くカギはメカニズム解明にある

- 現象把握、仮説構築、仮説検証のサイクルを回しメカニズムを解明。
- 設計構想を策定しコントロールすべき物理量を明確にすることで根拠ある製品設計につなげる。

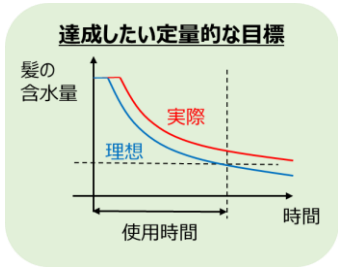


※:現象のメカニズム、機能のメカニズムの両方が必要

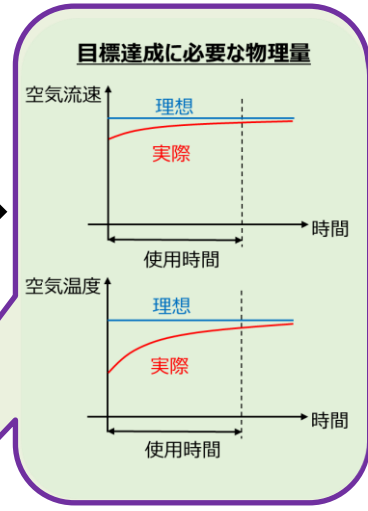
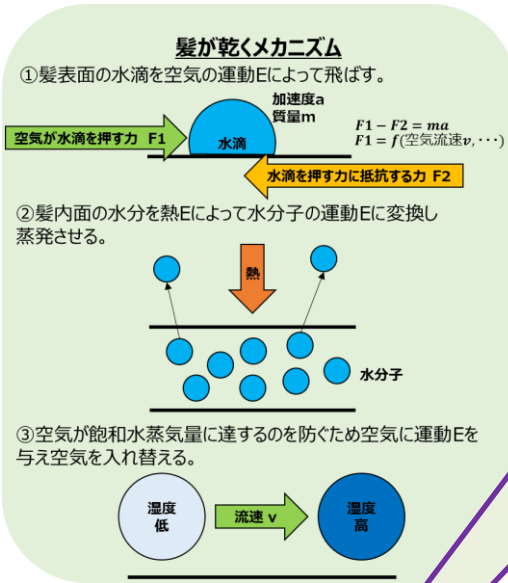
# ■ 本質的な原因追究と解決のアプローチ

- ① 目標と製品設計までを定量的につなげ、未知と既知を明確にする。
- ② 問題(目標未達)の現象を把握し原理を解明、未知を既知にする。
- ③ 制御すべき物理量を把握、設計構想を策定し問題を解決する。

## ヘアードライヤーの例

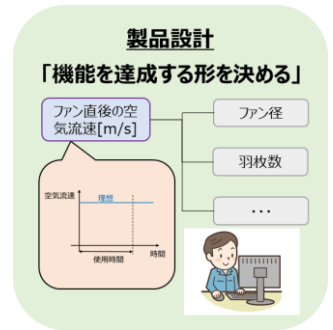
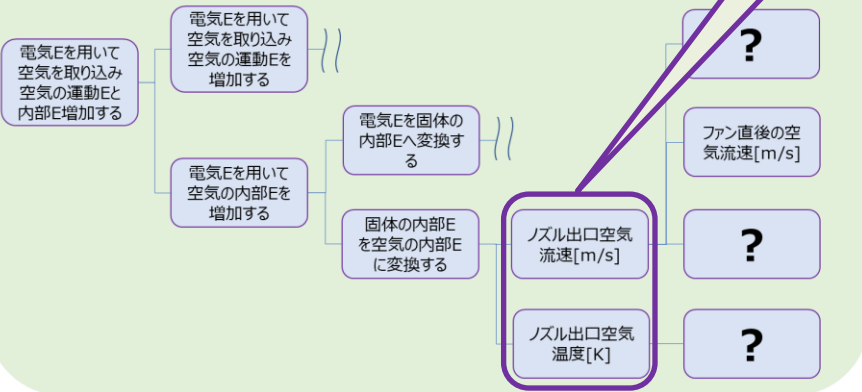


「そもそも髪が乾くとは？」



目標値と機能がつながる

## ドライヤー機能展開



設計構想と製品設計がつながる

## ■ 価値

- 各物理量の影響度を定量的にし、どこに注力すべきか判断できる。
- 現状の形式の限界が分かり、新しい形式へ移行すべきか判断できる。
- 一度設計構想を策定すれば派生機種毎の機能設計は必要無い。

## ■ 支援業種実績

- 輸送用機器・電気機器・機械・精密機器・ガラス土石製品・医薬品